神奈川中学校　　学校評価報告書　　（平成29年度）

（総括　A:十分達成　B:概ね達成　C:努力必要　D:改善必要）

重点取組分野	平成29年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①生徒の実態に応じて、各教科2回の教科相談の形式・内容を検討し、実施する。 ②教員の授業力向上にむけて、互いの授業を参観しやすい環境づくりを行う。また、授業者には参観メモを還元し、今後の指導に役立てられるようにする。	①教科ごとに教科相談についての形式・内容の検討を十分に行い、そのときの学習内容と生徒の実態に応じた相談形式・内容とした。 ②参観メモにより、授業者に役立つ情報が送られ、参観者の学習にもなった。今後は、より参観し合える機会を作る必要がある。	B
豊かな心	①道徳科の指導の充実 ・授業場面を使った職員研修を行う。・より深い生徒理解のために、評価に関する研修会を行う。 ②確かな人権感覚・意識の育成 ・行事の目的に、仲間を大切にする態度の育成を明記する。・子どもを褒める場面と発言の場面を計画的に設ける。	①初めて行う評価の在り方について方針を定めることが中心となってしまい、授業を扱った授業研修会を行うことができなかった。 ②特に校外学習を通じて、仲間を大切にする態度の育成ができた。事後学習などの活動の中で教師から生徒へ、生徒同士でお互いを評価しあう場面を計画的に設け、良さを認め合う雰囲気づくりができた。	C
健やかな体	①「体つくり」の分野で効果的な指導ができるよう、研究や研修を行い、保健体育科の授業改善を図る。 ② 体力テストや独自指標等の結果をもとにした、体力向上1校1実践運動の改善を図る。 ③ 体力テストの結果等を振り返り、自己の体力に興味を持たせる。体力の向上、生活習慣の改善を図るための時間を設ける。	①補強運動についての研究を行い、実践した。また、他の学校や他市での取り組みを知ることができた。 ②体力テストを基準として、体力向上1校1実践運動の計画を立てたが、その実践内容が職員全体で共有できていなかった。 ③体力テストの結果を振り返る時間を設け、自己の体力を知ることができた。その後、体力向上のための取り組みは良かったが、継続できなかった。	B
キャリア教育	①1年生では講師の方を学校に迎えて職業体験学習を実施する。2年生では生徒が事業所に出向いて職業体験学習を実施する。そして3年生では進路情報の積極的な発信に努める。 ②引き続き校内に「進路コーナー」を設け、生徒が必要な情報を得ることができるようにする。また、わかりやすい配置で置くように継続していく。	①1年生・2年生ともに体験先の新規開拓を行い、より多様な職業に触れる機会を得ることができた。 ②例年、進路コーナーを利用する生徒は多くいるが、「受検に向けて」利用しているわけで、集中的な「進路学習」と言える。特に1年生・2年生の進路学習は職業体験に集中しているため、進路学習＝職業体験学習となってしまっている。	C
特別支援教育	①支援が必要な生徒の情報収集・発信・共有の方法を見直す。 ②全職員の関わりの中で、特別教育支援室を活用できるようにする。	①支援室を開設して3年が経過し、今年度は、その目的や体制を見直し、より具体的な指針を打ち立てることができた。少しの時間であっても特別支援委員会の会議を持ったことで、委員会内では支援が必要な生徒の情報を共有することができた。 ②全職員の関わりを啓発することはできたが、担任や学年の関わりがあいまいになってしまったり、支援室を利用する生徒の見通しが不明瞭になってしまうことがあった。	C
望ましい集団活動	①「生活向上プロジェクト」を実施して、学校生活の向上と主体的に活動できる生徒の育成を目指す。 ②コミュニケーションの基本であるあいさつができるように、総務委員による定期的な「あいさつ・清掃運動」を実施する。	①「生活向上プロジェクト」を生徒会本部と委員会が主体の活動だけではなく、学級での活動になるよう焦点を置いて取り組んだ。 ②生徒が達成感をもって取り組む活動として運営が出来た。活動状況校全体に周知をし、より効果が高まる方法を検討していく。	B
安全管理	①学校防災計画を職員全体で把握し、災害時の避難方法や点呼の方法を共有、点検、修正する。またそのための夏季職員研修を行う。 ②様々な場面を想定した訓練を行う中で、生徒自らが安全について考える姿勢を育てる。また学校保健委員会では外部機関と連携をとりながら、防災について学習を深める。	①職員夏季研修では、避難所運営ゲームを通して、災害時の動き方を考えることができた。 ②区役所から講師を招き、防災をテーマにした学校保健委員会を開催した。また、区から配布された防災ガイドを利用しながら、地域の避難所を確認したり、災害に向けた正しい備蓄方法などを調べたりなどすることができた。	B
いじめへの対応	① PTA・地域・職員・生徒会が一体となった月1回のあいさつ運動を実施し、誰もが安心できる受容的な環境をつくる。 ② 年3回のいじめ等のアンケートを実施し、教育相談に活用し実態把握に努める。必要に応じ、校長をリーダーとし、担任や各学年教諭、生徒指導専任教諭から成るチームによる支援を進める。	①PTA・職員や地域・職員、生徒・職員でのあいさつ運動を実施することができた。顔を合わせての「あいさつ」運動を通して、受容的な環境づくりの一因となった。 ②年3回のいじめアンケートや学期はじめの教育相が実施ができたことは、実態把握に効果的だった。いじめ防止対策委員会の実施が一時、不定期であったため、情報共有の徹底に至らなかった。	B
人材育成・組織運営	①メンターチームの研修を定着させ、中堅職員をリーダーとしながら年7回の自主研修を行い、経験の浅い職員とミドルリーダーの育成を図る。 ②校内組織を改善し、研究授業、校内研修を意図的、計画的に実施しながら、教師力の向上を目指す。	①経験の浅い職員が中心となり、自主研修を進めた。少人数グループでの授業研を実施し、授業力向上に努めることができた。ミドルリーダーのかかわりを検討し、研修の質を高めていきたい。 ②授業研、研修会については改善を重ね、より効果的になるよう努め、職員の意識向上につなげることができた。新学習指導要領実施に向け、チームとして学校が運営できるよう、組織の見直しをさらに進めていきたい。	B

ブロック内相互評価後の気付き	生徒・保護者ともに「充実した学校生活を送っている」という肯定的な意見が高く、各学年とも落ち着いて過ごしていることが、ブロック内の小学校でも評価された。一方では、「大切にされていない」と感じている生徒が一定数いることに対して。細やかな対応が必要であるとともに、「多くの成功体験を手間暇かけて積み重ねることで改善されるのではないか」と小学校からアドバイスを受けた。学習面でも引き続き小学校との連携を深めて、基礎の確立とともに自尊感情を培っていきたい。また、全体的に「わからない」という回答が多く、学校評価アンケートだけに限らず、丁寧な説明と発信の必要を感じている。 今年度、地域の防災訓練に中学生が参加し、非常に前向きな活動が見られたことは、地域とのかかわりがやや薄いというアンケート結果に対する改善策になるとともに、小学生への良いロールモデルになるとの評価を受けた。
学校関係者評価	地域代表の方々からは、次のような内容の助言をいただいた。 ・学校評価アンケート結果より、落ち着いた学校生活を送っていることがわかる。地域でできることは協力していきたい。 ・生徒は校内では外部の方にも挨拶をしっかりできるが、校外ではなかなか声を交わすことができない。大人から積極的に声をかけ、見守られていると感じられるようにしていきたい。 ・部活動については、外部指導者にお願いしたり、休みの日を設定したりすることで、教員の負担軽減につなげていけるとよい。

学校経営中期取組目標振り返り	学校全般において比較的落ち着いた状況にあり、多くの生徒が充実した学校生活を送ることができている。一方、特別な支援を必要とする生徒に対する関わり等、具体的な取組にまだ工夫の余地がある。また「キャリア教育」においては、職業体験学習に力を入れ成果をあげているが、さらに3年間を見据えた、系統的な進路指導の充実を図りたい。「豊かな心」については、道徳や人権・国際教育の中だけでなく、あらゆる機会を通して仲間と助け合い、協力し合う体験を積ませ、その中から他者を尊重する精神や自己肯定感、自己有用感を育てたい。また安全管理について、特に今年度は防災教育に重点を置いて取り組んだ。教職員の研修会をはじめ、避難訓練の充実、防災をテーマにした学校保健委員会の開催、さらに地域防災訓練への生徒の参加など新しい取組ができた。来年度は、引き続き「確かな学力」に向けて、教職員の授業力向上を目指した授業研究を積極的に行うとともに、「特別支援教育」や「キャリア教育」、「豊かな心」の課題に取り組んでいきたい。